

近江富士＝滋賀県三上山に登る 思いがけない長期の山離れ

9月17日北アルプス・乗鞍岳登山(肩の小屋まで)から帰宅し、翌早朝から発熱、土庫(どんご)病院にて「はい、コロナ感染症にしっかりかかっています」と宣告され、即、自宅謹慎生活が始まった。

このコロナ禍、「見事に」妻にリレーされ、妻の回復まで2週間余の逼塞(ひっそく)生活を余儀なくされた。

そして、そのまま衆議院総選挙の取り組みへと突入、思いもしなかった長期の山離れ生活となった。

日常に戻れないまま三上山へ

選挙後、朝起きると雨、という日が続き、早朝山歩きが

できない日々が続いた。体を動かすこともなく、電話と慣れないパソコン漬けが続いた「非日常」の暮らしから「未明起床・早朝山歩き・時々昼寝」の日常へ戻れないまま三上山に行くことになった。前日になって、私の山歩きには普段何も言わない妻が「二上山で足慣らしをしてからにしたら」と言う。「まあ、無理はしないさ。無理ができる歳でもないし」と答えたが、私自身も一抹の不安をぬぐえなかった。

またまた湖国の人の親切に感謝

11月5日 JR 東海道線・野洲(やす)駅に8:41着。南に見える三上山目指して歩き始める。近道をしようにして病院敷地内に迷い込んでしまい、たまたま、道路に出ていた中年男性に道を訊いた。丁寧な説明に礼を述べて歩いていると、後ろから来た乗用車が横に停車し、先ほどの男性が「私の説明では分かりにくいと思うので、登山口まで送ります」と言って、助手席のドアを開けてくれた。今年6月に同じ滋賀県の織(きぬがさ)山に登った折にも同様の体験をしたのだった。

滋賀県人の度々の親切に深謝しつつ、この男性が不安だったのは、むしろ私の覚束ない足取りだったのではないか、と思わず微苦笑が浮かびそうになった。

「山頂へ 楽な道なし 三上山」

おかげ様で、9:00 裏登山道登山口に着いた。道標に「山頂へ楽な道なし三上山」と書いてある。

人生訓かと思われる内容だが、実際に上り下りしてみても、「なるほど、うまいこと言うてるわ」と感心

した標語だった。

険阻な道が連続する表登山道

山腹を回る中段道をたどって、表登山道に出て登り始める。鋭い円錐形の山容から見て、急登は覚悟していたが、鎖場、手すり付きの急坂などが連続し、不摂生・鍛錬不足の身体にとっては厳しい道だった。

しかも端境期とあって花がない、枯れかかったヒヨドリバナがわずかに見えるだけ。

展望台からは琵琶湖が見えた

山頂直下の大きな岩の上が格好の展望台になっており、そこから眼下の野洲の町並みとそれを取り巻く近江平野、そして鈍く光る琵琶湖が見てとれた。滋賀県の山は、いずれも琵琶湖が見える。なぜかホッとする、癒される情景だ。

山頂広場で昼食

10:35 山頂着。平坦な小さな広場になっており、周囲にいくつかのベンチが設けられている。そのベンチで昼食をとりながら、周囲の人たちに「安全に下れる道は」と問うが、人によって答えが違う。下りも楽な道はなしということらしい。

裏登山道を経て下山



↑ふもとから見る三上山



結局裏登山道を通って下り、バスで野洲駅に。
危なっかしい足取りだったが、何とか無事に帰宅できた。
日常の鍛錬を我慢強く続けることとしよう。

↓山頂直下展望台からの野洲の町と琵琶湖



ゆっくり見たかった天保義民碑と関連施設

この三上山は、江戸時代・天保13年(西暦1842年)に起こった「近江検地反対一揆」にかかわる「天保義民碑」と関連施設があることでも知られている。

黒船来航・列強による開国要求、国内では相次ぐ飢饉と米価の高騰、疫病蔓延など、内憂外患の中で、農民・都市の生活困窮者などの一揆・打ちこわしが頻発、幕府は天保の改革に乗り出し、その最重点課題として年貢の増収を図って「検地」等を実施するが、この政策の転換を求めて立ち上がったのが近江大一揆だった。

この一揆は「検地中止書」を書かせて、大きな成果を上げ、その後の全国各地の検地中止の引き金となった画期的な闘いだった。

衝撃を受けた幕府は大弾圧で指導者等を処罰し、多くの犠牲者が生じた。この一揆を記念し、犠牲者を顕彰し、しのぶ「天保義民祭」がこの義民碑の前で毎年行われている。

私は下山後、義民碑や関連施設を見学するつもりだったが、疲労してそれを果たせなかったのは残念なことだった。



続・続・二上山に咲く花々

キチジョウソウ(吉祥草) 写真は故澤木仁さん

キジカクシ科キチジョウソウ属

11月13日、香芝市の上之池登山口から登り始めました。新池横の分岐・銀峯へと向かう路の足元に一株のキチジョウソウの花が咲いていました。そうです、他の花々が姿を消している今頃、可憐な花を見せてくれるのです。このルートでは初めての出会いでした。

キチジョウソウはこのシリーズの初期にも取り上げ、澤木さんの写真集「二上山に咲く花々」にも掲載されていますが、嬉しくて、ここに再登場してもらいました。

「いいことがあると咲く花」との言い伝えがあり、この日は晴れ晴れした気分でした。

別のルートでの帰途、立ち寄ってみると、小さな群落をなして、10株ほどが花をつけているのです。

當麻大池～初田川公苑からの道では、大龍寺上の竹林の中に群落があり、双方とも11月いっぱい楽しめますね。